

# 千葉商工会議所景気動向調査

## ……平成26年5月期調査結果報告……

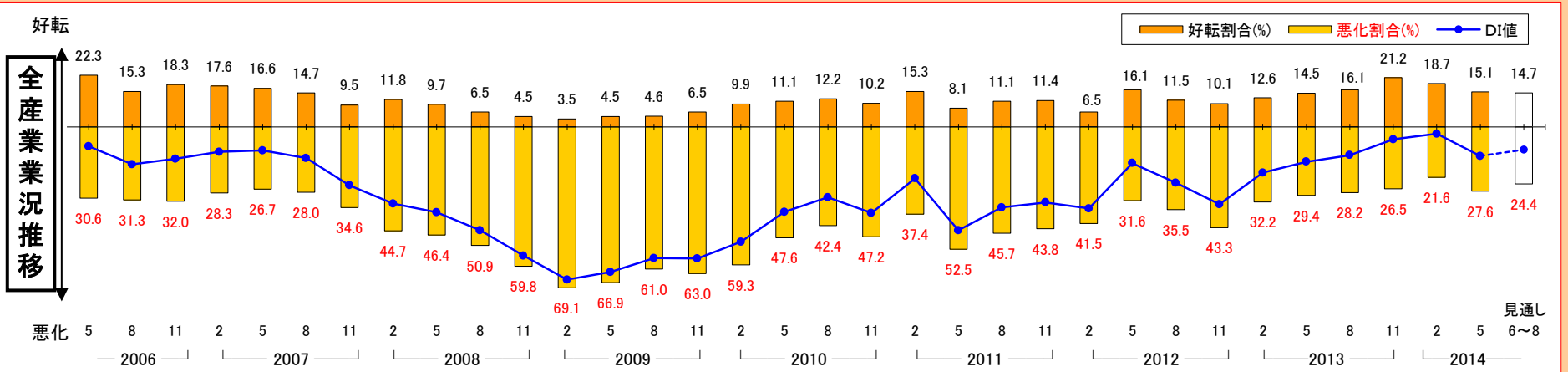
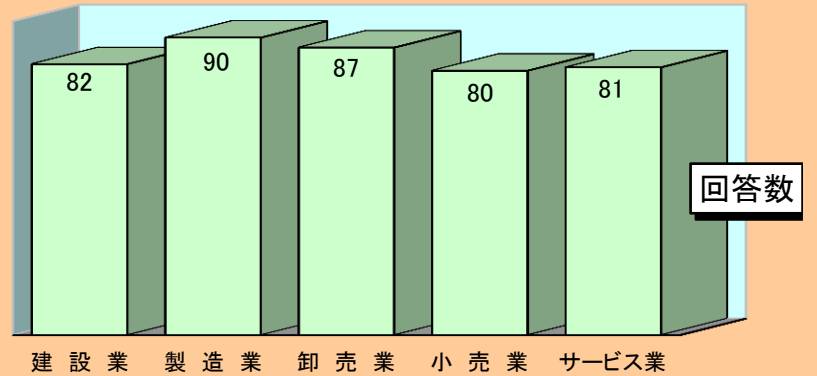
調査期間：平成26年5月12日(月)～5月22日(木)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社  
(回答 420社 回答率 84.0%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



### 【全体の特徴】

(▲はマイナス)

5月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成26年2月、以下同じ)と比較して、全業種で下降、特に建設業と小売業で大幅に下降した結果、全産業合計DIは9.6ポイント下降して▲12.5となり6期ぶりに下降した。一方、向こう3ヶ月(7～9月、以下同じ)の先行き見通しは、小売業で大幅上昇、サービス業も上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より2.8ポイント上昇の▲9.7となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、製造業を除く4業種で下降した結果、全産業合計DIは3.7ポイント下降して▲2.2となり6期ぶりに下降した。また、向こう3ヶ月の先行き見通しも、建設業、製造業、サービス業で下降の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より2.9ポイント下降の▲5.1となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業と製造業で上昇する一方で、他の3業種で下降し、全産業合計DIは0.1ポイント下降の▲15.8となり、ほぼ横ばいながらも6期ぶりに下降した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業、製造業、サービス業で下降見通しとなっており、全産業合計DIは現状より1.4ポイント下降の▲17.2となっている。

全体を総括すると、6期ぶりの業況悪化の要因として、円安や原材料価格上昇に加え、消費税率引き上げ分の価格転嫁に苦慮する声が多数の企業から寄せられた。また、従業員DIが過去最高値となり多くの企業で人手不足が発生している様子がうかがえる。

### 【業種別特徴】

#### ・建設業

前回調査と比較して、業況DIは15.1ポイント下降して4.9に、売上DIも4.3ポイント下降して11.1となったが、採算DIは4.9ポイント上昇して3.7となった。業況DIと売上DIは2期連続で下降、採算DIは2期ぶりの上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より下向くとの見方になっている。

企業の声としては、消費税率引き上げに伴う仕入額について「税率引き上げ分を超える額が目立つ」「便乗値上げがある」等の声が多数あった他、「従業員不足により条件の良い仕事も断っている」等、深刻な人手不足を訴える声も複数あった。

#### ・製造業

前回調査と比較して、業況DIは8.0ポイント下降して▲6.8となったが、売上DIは6.7ポイント上昇して9.1に、採算DIも8.7ポイント上昇して▲4.5となった。業況DIは2期ぶりの下降、売上DIは2期ぶり、採算DIは3期連続の上昇となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIはほぼ横ばい、売上DI、採算DIは現状よ

り下向くとの見方になっている。

企業の声としては、消費税率引き上げで「売上は伸びても利益が少ない」「税率引き上げ分を価格に転嫁できない」といった多くの声に加え、電気代や燃料費等のコスト上昇の影響で「売上が減少する」「利益が圧迫される」といった声が寄せられた。

#### ・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは4.0ポイント下降して▲14.0に、売上DIも2.6ポイント下降して1.2に、採算DIも4.4ポイント下降して▲23.2となった。業況DIと採算DIは3期ぶり、売上DIは2期連続の下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、採算DIは現状より上向き、売上DIは横ばいとの見方になっている。

企業の声としては、仕入価格上昇の要因として、消費税率の引き上げや円安傾向に加えて、「中国やインドにおける原料価格高騰により販売価格を上げざるを得ない」等の海外情勢の影響を指摘する声があった。

#### ・小売業

前回調査と比較して、業況DIは17.0ポイント下降して▲41.3に、売上DIも9.3ポイント下降して▲33.3に、採算DIも5.0ポイント下降して▲39.7となった。業況DI、売上DI、採算DIとも2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状よりも上向くとの見方になっている。

企業の声としては「消費増税の反動により客数及び客単価が大きく下落」といった声に代表される、消費税率引き上げの悪影響に関する声が多数寄せられた。また、人材不足に関する声も複数あり、「賃上げしても応募者が来ない」といった声もあった。

#### ・サービス業

前回調査と比較して、業況DIは2.8ポイント下降して▲7.5に、売上DIも8.4ポイント下降して▲1.3に、採算DIも3.6ポイント下降して▲16.5となった。業況DIは2期連続、売上DIは5期ぶり、採算DIは3期連続の下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より下向くとの見方になっている。

企業の声としては「ハローワーク等を利用して応募がない」「募集経費を通常の3倍以上かけても定員未達」等の雇用に関して厳しい状況を訴える声が多数寄せられた。さらに「受注のチャンスがあっても人員不足で対応できない」といった声もあった。

【調査結果のポイント】 \* 業況は6期ぶりに悪化、小売業では消費税率引き上げの影響が色濃く

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。  
[http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms\\_id=99](http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms_id=99)

# 【全産業】

